



本部長 項目を追加した「子どもの市政への参加等の機会の確保」について、参加と協働基本条例にうたわれている「参加」だけでは従来の取り組みと変わらないのではないか。

本部長 子どもの権利条例施行に向けて、新たに項目として追加したもの。

本部長 子どもの権利条例に定めた「参画」の表現を入れる等するべきでは。当該表記を調整することとし、本件については了承とする。

次に「3 狛江市中期財政ビジョン(令和7年度ローリング版)(案)について」説明をお願いします。

事務局 前回の行財政改革推進本部会議から、各部に確認いただき、修正を行った。計画の期間の相違や同じ目標値でも年次が違う事等の指摘があったため、名称を「中期財政計画」から「中期財政ビジョン」に変更した。ビジョンは、直近の市を取り巻く環境や課題等を的確に踏まえながら、財政の規律や基準を設けることで、その健全性と安全性を確保し、翌年度から3箇年の見通しを立てることを主眼として作成しており、行革推進計画や推進プランと同時に審議する中で、「計画」という表現により誤解が生じる可能性があったためである。関連する目標値は後期基本計画に従う内容で、変更している。本修正に関連して大きく変更のあった箇所について説明する。1点目、6ページ「市債発行額の基準」では、後期基本計画に定める残高となるよう努める旨を追加した。2点目、10ページ経常収支比率の目標値は、後期基本計画に定める令和11年度90.0%以下といった、記載に変更しており、26市での順位比較について、本部長・本部長員からも意見があり一定の改善がみられていることから、目標値等の表現は削除した。その他、必要な文言修正や、数値等が不一致となっていた箇所を更正した。

本部長 今回名称変更があったが、従前の中期財政計画のローリングであるため、中期財政計画からビジョンへつながっているものだと認識できるか。

事務局 沿革にいきさつを記載している。

本部長 本件については了承とする。

次に「4 令和6年度の人事評価結果について」説明をお願いします。

事務局 令和6年度結果は、S評価 0.23%、A評価 15.38%、B評価 80.09%、C評価 3.62%、D評価 0.68%、全体平均は 3.11 となった。前年度比較では 0.05 ポイント低くなり、基準であるB=3に近づき、過去の高い評価傾向が少しずつ是正された。SとAの合計は 15.61%で過去5年で2番目に少なく、CとDの合計は 4.27%となり、過去5年で1番多い結果となり、これまでより差がついた評価となった。1つの考察としては、令和2~4年度は新型コロナウイルス対策業務があった一方、各事業の停止や出勤を控えるよう奨励していたため、低い評価をしにくかったのではないかと推察しており、その後、事業が通常に戻ったことや新規事業の実施、人事評価研修の受講や評価結果の公表等を通じて、差を設けた評価となったのではないかと推察している。依然として下位評価の割合は低く、令和6年度においてもCD評価 19 件で、SA評価の3分の1以下である。

働きぶりが評価に反映されていないといったご意見、業務分担で軽減している等の配慮をしているにもかかわらず中位の評価となっていることある。上位評価と同様に下

位評価も適切に行うようお願いする。

本部長 本報告の意図するところは。

事務局 当市としては一次評価、二次評価いずれも絶対評価であるため、各評定の割合は定めていないが、行動記録に基づいた適切な評価をお願いしたい。

本部長 今回の評価結果から、人事配置に少し偏りがある可能性があるため、今後の人事配置の際には評価結果も参考に。

特に質問・意見等なければ、本件については了承とし、第435回狛江市行財政改革推進本部会議を終了する。